

はじめに

設定方法は以下の通りです。

目次のページ番号に変更があった場合、目次のページ番号を更新することが可能です。

本仕様書は、数字・記号・文字列入力とチェックマークによって行われ、手入力またはデジタルテキスト入力が可能です。チェックマークの設定ルールは、

□ : 1項目単位で同時に複数選択可能。■、レ点、該当箇所を囲むことで有効。

○ : 1項目に1つのみ選択可能。●、レ点、該当箇所を囲むことで有効。

とします。

また、既定で設定されている項目には(既)を記述し、値がある場合には(既:xxx)と記述しています。

本書に明らかに誤った設定記述 (○チェックの2重化、IP アドレスの記述ミスなど) がある場合は、現在の設定内容を確認し、訂正します。

【目次】

1 基本構成	5
1.1 ハードウェア構成.....	5
1.2 システム構成.....	6
1.3 インストール基本情報.....	7
1.4 ディスク情報.....	8
2 基本構成図	9
2.1 システム構成.....	9
3 システム環境設定	10
3.1 ローカルユーザアカウント設定.....	10
3.2 ネットワーク環境設定.....	11
3.3 システム基本設定.....	14
3.4 DOCK 設定.....	22
4 サーバ設定	23
4.1 一般設定.....	23
4.2 AFP サーバ.....	25
4.3 OPEN DIRECTORY.....	26
4.4 SMB サーバ.....	28
5 ワークグループマネージャ設定	29
5.1 ローカルユーザアカウント.....	29
5.2 ローカルグループ.....	30
6 ファイル共有	31
6.1 共有ポイント.....	31
6.2 フォルダのアクセス権.....	33
7 ディレクトリユーティリティ	35
7.1 ディレクトリユーティリティ・全般設定.....	35
7.2 ディレクトリユーティリティ・プラグイン設定.....	35
8 追加インストール	37
8.1 追加アプリケーション.....	37
8.2 追加デバイスドライバ.....	37
9 UPS 設定	38

9.1	SUICIDONS AGENT 設定	38
9.2	SNMP/WEB CARD 設定	39

変更履歴一覧

項番	日付	修正内容	担当	作業日	版数
1	2010/10/05	初版作成	西澤	2010/10/07	第 1.0 版
2	2011/01/13	UPS 関連追加	西澤	2011/01/12	第 1.0.1 版
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					

1 基本構成

1.1 ハードウェア構成

【構成機器】

メーカー	種別	品名	数量	メーカー型番
Apple	本体	Xserve 2 26GHz Quad-Core Xeon、6GB、1TB SATA×3、Xserve RAID、SD	1	ME448J/A ベースの OTO モデル
	ストレージ			
Apple	OS	Mac OS X Server v10.6 Snow Leopard Unlimited クライアント	1	MC988J/A (本体にバンドル)
	その他			

1.2 システム構成

【システムの情報】 ……[この Mac について]

システム	バージョン	[Mac OS X Server v10.6.4]
	ビルド	[10F616]
コンピュータ	シリアル番号	[YR03300A10S]
	プロセッサ	[Quad Core Intel Xeon 2.26GHz x1]
	メモリ	[6GB]
	起動ディスク	[ServerHD]

【コンピュータの識別名】 ……[サーバ管理]—[設定]—[ネットワーク]タブ

コンピュータ名	meridian	
ローカルホスト名	meridian.local	
ネットワーク	名前	[Ethernet (en0)]
インターフェイス	ファミリー	[IPv4]
	IP アドレス	[REDACTED]
	DNS 名	[REDACTED]

【修正モジュール】

修正モジュール名	バージョン	備考
AirMac Basestation Update 2010-001	v5.5.1	
Mac OS X Server v10.6.4 Combined Update	v1.0	
Java for Mac OS X 10.6 Update 2	v1.0	
Remote Desktop Client Update 3.3.2	3.3.2	
iTunes 9.2.1	9.1	
iLife Support 9.0.4	9.0.4	
Snow Leopard Graphic Update 1.0	v1.0	
Security Update 2010-005	v1.0	
Safari 5.0.1	4.0.5	
Security Update 2010-006	v1.0	

1.3 インストール基本情報

インストール	
言語 (スタート画面): <input type="radio"/> 英語 <input checked="" type="radio"/> 日本語 <input type="radio"/> フランス語 <input type="radio"/> ドイツ語	
<input checked="" type="radio"/> 手動インストール <input type="radio"/> フリインストール	
インストール先の選択	ボリューム先: [ServerHD] オプション: <input type="radio"/> MacOSX をアップグレード <input checked="" type="radio"/> 消去してからインストール
インストールの種類	<input type="radio"/> 簡易インストール (既) <input checked="" type="radio"/> カスタマイズ <input type="checkbox"/> 日本語環境 (既) <input type="checkbox"/> 英語環境 (既) <input type="checkbox"/> ドイツ語環境 <input type="checkbox"/> フランス語用環境 <input type="checkbox"/> フォントドライバ <input type="checkbox"/> X11 <input type="checkbox"/> Rosetta <input type="checkbox"/> QuickTime 7
設定アシスタント	
キーボード	<input checked="" type="radio"/> ことえり <input type="radio"/> その他 []
管理者アカウント	名前: [] ユーザ名: [] パスワード: []
LOW (Intel Xserve のみ)	ポート: <input checked="" type="radio"/> ポート 1 <input type="radio"/> ポート 2 ルータアドレス: [] IP アドレス: [] アカウント: [] サブネットマスク: [255.255.0.0] パスワード: []
ネットワーク名	ローカルホスト名: <input type="checkbox"/> ダイナミックグローバルホスト名使用 []
TCP/IP 接続 (IPv4)	インターフェース: Ethernet プロキシ [手入力] 設定: <input checked="" type="radio"/> 手動 <input type="radio"/> 切 シ [:] IP アドレス: [] HTTP: [] サブネットマスク: [] HTTPS: [:] ルータ: [] RTSP: [:] DNS サーバ: [] SOCKS: [:] 検索ドメイン: [] Gopher: [:] 自動: <input checked="" type="checkbox"/> 受動 HTTP モードを使用

ディレクトリサービス	<input checked="" type="radio"/> スタンドアロンサーバ <input type="radio"/> Open Directory のマスター <input type="radio"/> Open Directory の複製 <input type="radio"/> ディレクトリサーバに接続
構成するサービス	<input checked="" type="checkbox"/> AFP <input type="checkbox"/> DHCP <input type="checkbox"/> DNS <input type="checkbox"/> FTP <input type="checkbox"/> iCal <input type="checkbox"/> iChat <input type="checkbox"/> MySQL <input type="checkbox"/> NAT <input type="checkbox"/> NetBoot <input type="checkbox"/> NFS <input checked="" type="checkbox"/> Open Directory <input type="checkbox"/> Podcast プロデューサー <input type="checkbox"/> QuickTime Streaming <input type="checkbox"/> RADIUS <input checked="" type="checkbox"/> SMB <input type="checkbox"/> VPN <input type="checkbox"/> Web <input type="checkbox"/> WebObjects <input type="checkbox"/> Xgrid <input type="checkbox"/> ソフトウェア・アップデート <input type="checkbox"/> プリント <input type="checkbox"/> ファイアウォール <input type="checkbox"/> メール
時間帯	最も近い都市: [京都市-日本]
ネットワークタイム	<input checked="" type="checkbox"/> ネットワークタイムサーバを使用する <input type="checkbox"/> Apple アメリカ合衆国 <input type="checkbox"/> Apple アジア <input type="checkbox"/> Apple ヨーロッパ <input checked="" type="checkbox"/> その他

1.4 ディスク情報

ディスクの構成

ディスク装置	ボリューム名	総容量	フォーマット	RAID	Bay
内蔵	Server HD	1TB	Mac OS 拡張 (ジャーナリング)	Hardware RAID 1	1
内蔵	Server HD1	1TB	Mac OS 拡張 (ジャーナリング)	Hardware RAID 1	2
内蔵	Server HD2	1TB	Mac OS 拡張 (ジャーナリング)	Hot Spare	3

ハードウェア RAID *本体にハードウェア RAID カード装着の場合記入してください。

RAID セット名:	[RS1]
RAID レベル:	<input type="radio"/> 拡張 JBOD <input type="radio"/> ORAID0 <input checked="" type="radio"/> RAID1 <input type="radio"/> ORAID0+1 <input type="radio"/> ORAID5
ドライブ:	<input checked="" type="checkbox"/> ベイ 1 <input checked="" type="checkbox"/> ベイ 2 <input type="checkbox"/> ベイ 3 <input checked="" type="checkbox"/> 未割り当てのドライブをスペアとして使用
ボリューム名:	[ServerHD]
フォーマット:	Mac OS 拡張 (ジャーナリング)

その他特記事項

ファームウェアのバージョン	1.3.2.0
ハードウェアのバージョン	2.00
ドライブのバージョン	118
拡張 ROM のバージョン	0018

2 基本構成図

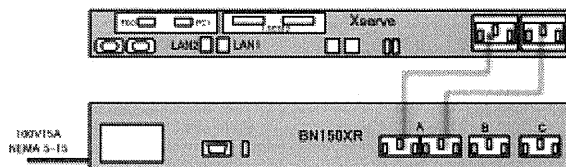
2.1 システム構成

[UPS1]

機種名:[BN150XR]

ポート	接続装置名	最大消費電力	停電後の自動再起動	遅延制御
A	Xserve 2009 Quad	334W	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし
			<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	
B			<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
			<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	
C			<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
			<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	

[接続図]



3 システム環境設定

3.1 ローカルユーザアカウント設定

[システム環境設定] [アカウント]

[Local] 管理者アカウント

名前	ユーザ ID	ユーザ名	パスワード
██████████	████	██████████	██████████
<input checked="" type="checkbox"/> ユーザがこのコンピュータを管理 <input type="checkbox"/> へアレンタルコントロールを使用			
詳細オプション			
ログインシェル:	[/bin/bash (既)]		
ホームディレクトリ:	[/Users/██████████]		
UID:	[デフォルトの入力値 (既)]		
エイリアス:	[未入力 (既)]		
グループ			
プライマリグループ ID:	████	グループ名:	██████████
ほかのグループ: ██████████			

[グループ]

グループ名	グループ ID	メンバーシップ (所属するユーザ)
██████████	████	██████████
詳細オプション		
UID:	[デフォルトの入力値 (既)]	
ログインオプション		
自動ログイン: [無効]		
ログイン時の表示: <input type="radio"/> ユーザのリスト (既) <input checked="" type="radio"/> 名前とパスワード		
<input checked="" type="checkbox"/> 再起動、スリープ、システム終了ボタンを表示		
<input type="checkbox"/> ログインウィンドウに入力メニューを表示		
<input checked="" type="checkbox"/> パスワードのヒントを表示		
<input checked="" type="checkbox"/> ネットワークユーザにログインを許可		

3.2 ネットワーク環境設定

[システム環境設定] [インターネットとネットワーク] カテゴリ

ネットワーク環境: [自動]

サービスの順序:

Ethernet 1 (en0):	<input checked="" type="checkbox"/> TCP/IP	<input type="checkbox"/> 無効	<input checked="" type="checkbox"/> 接続
Ethernet 2 (en1):	<input checked="" type="checkbox"/> TCP/IP	<input type="checkbox"/> 無効	<input type="checkbox"/> 接続
FireWire (fw0):	<input checked="" type="checkbox"/> TCP/IP	<input type="checkbox"/> 無効	<input type="checkbox"/> 接続
Built-in Serial Port (1):	<input checked="" type="checkbox"/> PPP	<input type="checkbox"/> 無効	<input type="checkbox"/> 接続

サービス: [Ethernet 1 (en0)]

TCP/IP

[IPv4 の構成]: [IPv6 の構成]:

DHCP サーバを使用 DHCP サーバを使用 (手入力) 自動 切 手入力

BOOTP サーバを使用 手入力 切

IPv4 アドレス: [] ルーター: []

サブネットマスク: [] IPv6 アドレス: []

ルーター: [] プレフィックス長: []

DNS

DNS サーバ: [] 検索ドメイン: []

[] []

WINS

NetBIOS 名: []

ワークグループ: []

WINS サーバ: [] [] [] []

BOOTP

無効 有効

プロキシ

プロキシの構成: 手入力 OPAC ファイルを使用

FTP プロキシ: [] [] []

パスワードの必要なプロキシを使用 ユーザ名: [] パスワード: []

Web プロキシ (HTTP): []

パスワードの必要なプロキシを使用 ユーザ名: [] パスワード: []

保護された Web プロキシ (HTTPS): []

パスワードの必要なプロキシを使用 ユーザ名: [] パスワード: []

ストリーミングプロキシ (RTSP) : []
 ハスワードの必要なプロキシを使用 ユーザ名 : [] [パスワード : []
 SOCKS プロキシ : []
 ハスワードの必要なプロキシを使用 ユーザ名 : [] [パスワード : []
 Gopher プロキシ : []
 ハスワードの必要なプロキシを使用 ユーザ名 : [] [パスワード : []
 自動プロキシ構成 : プロキシ構成ファイル []
 URL : []
 簡易ホスト名を除外
 プロキシ設定を使用しないホストとドメイン : [* .local, 169.254/16]
 受動FTPモード (PASV) を使用

Ethernet

Ethernet ID (MAC アドレス) : []

構成 : 自動 手動

速度 : 自動選択 10baseT/UTP 100baseTX 1000baseT

通信方式 : 半二重 全二重 全二重、フロー制御

MTU : 標準 (1500) ジャンボ (9000) カスタム []

サービス : [Ethernet 2(en1)]

TCP/IP

[IPv4 の構成] [IPv6 の構成]

DHCP サーバを使用 DHCP サーバを使用 (手入力) 自動 切 手入力

BOOTP サーバを使用 手入力 切

DNS

DNS サーバ : [] [] [] [] [] []

検索ドメイン : [] [] [] [] [] []

WINS

NetBIOS 名 : [meridian]

ワークグループ : []

WINS サーバ : [] [] [] [] [] []

802.1x

無効 有効

プロキシ

プロキシの構成 : 手入力 PAC ファイルを使用

FTP プロキシ : [] [] [] [] [] []

ハスワードの必要なプロキシを使用 ユーザ名 : [] [パスワード : [] []

研究協力者

平成 22 年度 総合・分担研究報告書
厚生労働科学研究費補助金
地域医療基盤開発推進研究事業

5. 緩和ケア病棟における取り扱い症例の治療概要

研究協力者 横西 望、和辻 直、篠原昭二
明治国際医療大学鍼灸学科鍼灸学部・伝統鍼灸学教室
小嶋晃義、庄村祐三
千里中央病院

概要 平成 22 年 7 月から 23 年 11 月末の 35 症例（男 24 名、女 11 名）を対象として、某病院緩和ケア病棟において鍼灸治療介入の有用性の検討ならびに適応の評価を行った。個々の取り扱い患者の概要について要約した。

今回、主治医または患者本人からの依頼に対して鍼灸治療を介入した結果、著効 16 例（45.7%）、有効 8 例（22.9%）、やや有効 6 例（17.1%）、無効 0 例、判定不明 5 例（14.3%）であった。総合すると 68.6%に有効であったといえる。また、有害事象の発生頻度が治療後の倦怠感を 1 例訴えたのみで、3.6%と極めて低く、その程度も安静臥床で消失する軽微なものであったことから、非常に安全な治療法であるといえる。

一方、鍼灸治療の効果持続時間についてみると、鍼灸治療効果が 1 日以内 20 名（57.1%）、2 日以内 6 名（17.1%）、3 日以内 2 名（5.7%）から、鍼灸治療介入のタイミングは毎日あるいは 1 日に 2 回のサイクルで治療を行うことが望ましいと考えられた。このことは、緩和ケア病棟における鍼灸治療の導入の必要性を示唆するものであり、混合診療という枠組みから外して例外規定として運用することが望ましいことと考えられた。

なお、この症例概要は、データベースとしてファイルメーカーソフトを用いて変換してデータ集積にも供したものである。

20100001

〈症例〉61 歳、男性

〈傷病〉直腸癌術後、右骨盤内リンパ節転移
〈目的〉右骨盤内リンパ節転移による右下肢に起こった疼痛緩和を目的に主治医より依頼された。

〈服薬〉オキシコドン（錠）、ガバペンチンを服薬、レスキューとしてオキシコドン。

〈東洋医学的所見〉

鍼灸治療開始時、疼痛部位は右大腿外側部。所見は脈：虚、細、数、洪。舌：紅舌、無苔、瘀斑、舌下静脈怒張。皮膚全体が黒い（特に三陰交付近）、細絡あり、軽度浮腫、脳梗塞による麻痺から自足歩行できず、車いすの移動が多い事から足少陽経絡病、血瘀証（気滞）と考え、経絡的治療にて疎通経絡・活血化ヲを目的に開始する。

〈治療方法〉

使用鍼：直径 0.12mm、長さ 15mm（セイリン製 5 分-02 番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（0.1～0.4mm）とする。体調に応じて皮膚に接触するだけの鍍鍼を使用した。鍍鍼は銀製を使用。

使用経穴はその日の患者状態に応じて侠溪または地五会、内庭または陷谷、外内庭または外陷谷、行間または太衝、三陰交、血海、足三里とした。

〈期間〉7 月 1 日から 11 月 20 日までの全 36 回行う。

〈結果〉

我慢できないほどの痛みではないが、FS=3 の痛みが治療前まで、存在していたが、第 1 診目の鍼灸治療直後より FS=0 となった。2～3 日程度で痛みは戻っていたものの、継続的に治療していくうちに、6 回目以降から常に FS=0 となり、疼痛コントロールが可能になった。しかし、死前期より確認はと

れなかったが「驚くほど痛く、薬をのんだ」というコメントがあったが、オキシコドンを使用し、痛みを消失。1 日経過した時点でも FS=0 の状態になり、長期間保つことができていた。

死前期には強い疼痛が起こる事もあったが、主治医からは服薬量を減量しても、疼痛コントロールができていたとのコメントがあった。

〈本症例による鍼灸治療介入の総括〉

死前期の突発的痛みが出現した以外、投薬量を増量せずに疼痛コントロールが良好であった。

初診時より FS=3 から FS=0 となり、その後も NRS=0 の状態が、長期期間維持された事から著効であったと判断する。

〈治療開始時の状態〉ターミナル中期

〈転帰〉11 月 20 日に死去

20100002

〈症例〉84歳、女性

〈傷病〉右乳癌、右上腕骨転移

〈目的〉右乳癌、骨転移による癌性疼痛の緩和を目的に行う

〈服薬〉痛み止めとして、モルヒネ塩酸塩水和物液 10mg×3

〈東洋医学的所見〉患者本人には未告知。打ち身がしやすい。昼間も痛い、夜間の方が強い痛みがする。未告知のため、なかなか治まらない痛みに対して、イライラしているようにも見える。

ゲップはよく出る。喉が良く渴く、指先を中心に痺れる。舌：淡紅・無苔・やや裂紋脈：左虚・やや右緊、左感情やや渋、微弦から、裏虚熱、肝胃不和ととらえた。病巣上の経絡以上ととらえ、流注上にある抹消にある経穴で治療を開始する。

〈治療方法〉

使用鍼：直径 0.12mm、長さ 15mm（セイリン製 5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（0.1～0.4mm）とする。体調に応じて皮膚に接触するだけの鍣鍼を使用した。鍣鍼は補法を目的に金鍼、瀉法を目的に銀鍼を使い分けた。

使用経穴はその日の患者状態に応じて蠡溝、三陰交、復溜、内庭、外内庭、侠溪。

追加経穴に郄門、内関を使用する。

〈期間〉7月1日から4月11日の全72回

〈結果〉初診時 NRS=4 程度の痛みが鍼灸治療後少し軽減し、夜間痛みで目を覚ますことなく寝る事ができたとのこと。1か月過ぎたころより、痛み以外に手の痺れを訴えるようになる。痛み、痺れともに鍼灸治療直後から痛みが半減したとのこと。

現在、癌は進行しているため、痛みは徐々に頻度を増し、睡眠不足となっているが、

施行中または治療を受けた日の晩は痛みをあまり感じることなく眠れているとのことだった。

また、中途まで評価を FS でとっていたが、「FS=4」という言葉が口癖のようになってきたため、あえて、難しい NRS に切り替えたところ、すこし考えながらも毎回考えてから答えるようになった。

精神的変化として、当初はスタッフとトラブルもあったが、スタッフが小まめに声掛けをすることに対応を変更。現在は対人によるストレスはなく、告知されていないため、何故ここにずっと入院していなくてはならないのだろうというストレスのみとなり、鍼灸開始時に比べても、現在は随分落ち着いたと感じている。

鍼灸治療効果時間は状態悪化に伴い短くなってきているものの、9時間から12時間は鍼灸治療しない日に比べ痛みが和らいでいる。

〈本症例による鍼灸治療介入の総括〉

1年間を総合して、NRSは治療前後で1～2程度の改善変化ではあった。

印象評価では、治療中または治療日の晩は睡眠に入る事ができたこともあり、やや有効であった症例である。

〈治療開始時の状態〉ターミナル中期

〈転帰〉平成23年11月3日死去

20100003

<症例>93 歳、男性

<傷病>進行性の早期胃癌、肝転移

<目的>主治医により入院前から症状として現れていた坐骨神経痛に対する右下肢の疼痛緩和を目的とした。

<東洋医学的所見>

右大腿外側部痛のため、電気の走った様な強い痛み。服薬後であったため、SLR、ブラガードテストに徴候はせず、専門医にも確認したところ、徴候はそこまで出ていないとのことだった。痛みがあるとうつ伏せもしくい。暖めると少し緩和（入浴後）。家族に対しては怒鳴る時もあった。

八綱弁証：裏虚寒、臟腑弁証：肝胃不和、経絡弁証：足少陽胆経病、気血津液弁証：気虚血虚証と考えた。経絡異常ととらえ、神経痛の流注上にある末端経穴を使用した。

<方法>

使用鍼：直径 0.12mm、長さ 15mm（セイリン製 5 分-02 番鍼）を使用。刺入深度は切皮程度（0.1～0.4mm）とする。足三里穴には 2 番鍼で硬結部位に当たるよう 10mm 弱まで刺入した体調に応じて皮膚に接触するだけの鍣鍼を使用した。鍣鍼は補法を目的に金鍼、瀉法を目的に銀鍼を使い分けた。

使用経穴はその日の患者状態に応じて内庭、外内庭、地五会、太衝、三陰交、蠡溝、陰陵泉。

<期間>7 月 15 日から 10 月 18 日まで全 18 回行った。10 月 21 日以降、不可解な発言が多かったため評価がとれないと判断し、治療を中止した。

<結果>

初診時、坐骨神経痛の痛みは波があるものの強い時は VAS=92 の痛みだった。治療直

後 VAS=12 まで減少。患者本人から鍼灸師に、喋る事は殆どなく、常に怯える表情であったが、2 回目の治療時に笑顔がみられた事は良い刺激であり、1 回目の治療後から著効がみられたので非常に喜ばれていた。第 3 診目の早朝に VAS=70 の痛みがあったものの、朝食後から痛みは消失した。その後、弱い痛みが 30 秒くらい痛むが、以前に比べると随分楽になったとスタッフから何度か口頭で告げられた。しかし、身体的状態の悪化に伴い VAS はとりたくないという患者からの要望もあり、FS に変更する。一度 FS=4 の痛みがあり、夜間睡眠がとれない事もあったが、痛みの発生時間が 10 秒と減少し、殆ど苦痛を訴える事はなくなった。8 月末より、低栄養のため下腿浮腫が強くなった事から、浮腫に対する治療に切り替えたが、FS ですら受け答えができなくなり、また、「警察を呼べ」「騙された」などと意味不明な言動が多くなったため、中止となった。中止になる以前の状態では鍼灸治療効果時間は初診時の治療直後から痛みの軽減、無痛時間の増加が認められ、2 回目から治療効果時間は増加し続けた。

<本症例による鍼灸治療介入の総括>

坐骨神経痛による緩和を目的として行った。90 歳を超える高齢者のため、癌に対する以外での服薬を増量は望ましくなかった。鍼灸治療開始直後から FS=4 から 0 へと改善を認め、鍼灸治療介入以前と比較すると痛む時間の長さも改善された事から、患者本人も積極的に治療を受けたいという意思があった。著効のみられた症例だったと言える。

<治療開始時の状態>ターミナル中期

<転帰>10 月 29 日から意識レベル 300 のまま 11 月 6 日に死去される。

20100004

<症例>79歳、女性

<傷病>右乳癌術後、左リンパ節転移乳癌再発、右腋窩リンパ節転移炎症性乳癌様再発

<目的>医師より右胸部前面から後面にかけての腫瘍付近の疼痛緩和を目的とする。

<東洋医学的所見>

患者本人から何処がどう痛いのか伝える事はなかった。声は弱く、非常に小さい。何事にも怯えている様子。疼痛部位は右胸部前面から後面にかけて腫瘍部位付近全体がズキズキと疼くような痛み。脈：右関上微弦、痛みの部位より、Rt 陷谷、Rt 外陷谷、Rt 臨泣を選穴する。舌所見は、口を開けてもらえなかったためとれなかった。

八綱弁証：裏虚寒、臟腑弁証：肝脾不調・腎陰虚、経絡弁証：足陽明胃経病、気血津液弁証：気虚血瘀証と考えた。流注上から陽明経絡病ととらえ、流注上の抹消経穴でアプローチを試みた。

<治療方法>

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（0.1～0.4mm）とする。

使用経穴は三陰交、復溜、内庭、外内庭、俠溪。

<期間>7月19日から7月22日までの全2回。

<結果>評価はFSをはじめすべての評価に拒否された。しかし、第1診時には怯える仕草や不安な顔を終始していた患者であったが、第2診時に患者に笑顔を見ることができた事は重要であり、身体的苦痛が緩和された事によって、精神的苦痛の改善が得られたのではないかと考える。コミュニケ

ーションのとれない人のために、新しい評価法を作ることが今後の課題になった。

鍼灸治療効果時間については一切分からない。

<本症例による鍼灸治療介入の総括>

本症例は患者本人から痛みの変化を確認する事はできなかったが、1回目と2回目では少しでも笑顔となったことから精神的変化を与える事ができたと考え、やや有効であった。

<治療開始時の状態>ターミナル後期

<転帰>7月24日死去

20100005

<症例>85 歳、男性

<傷病>左肺腺癌

<目的>医師より心窩部の痛みの緩和を依頼

<東洋医学的所見>

心窩部の痛み中心に治療をすすめるが、患者とのコミュニケーションが不十分(話せない) 為、治療開始前の痛みとしても「ちよっと」と指で表現する事しかできなかった。

常に、胃から何かこみ上げてくる感じがする。という事から、胃気上逆ととらえ、肝胃不和として臓腑弁証に基づき、治療を行うことにした。

脈も点滴が手首の部分でされていた為とれず。舌診ができるような状態ではなかった。

<治療期間>

7月29日に1回治療を行う

<治療方法>

使用鍼：直径 0.12mm、長さ 15mm (セイリン製 5分-02 番鍼) を使用し、刺入深度は切皮程度 (0.1~0.4mm) とする。灸刺激は病院内での施術のため、e-Q (チュウオー製造 温灸器) を使用する。温度は低温 (47°C ± 2°C、5 秒) に設定し 3~4 回行う。

使用経穴、毫鍼：太衝、俠溪、後溪。e-Q (47°C × 3) : Th12~L2、公孫、足三里、三陰交、陰陵泉を使用する。

<結果>

回数が少ないという事もあるが、重症患者には従来の評価法 NRS、VAS、FS でも評価がとれる状態ではなかった。しかし、治療直後「痛みがあるか？」の質問に対し、首を横に振っていたことから直後は痛みが消失していたと考える。鍼灸治療効果時間はい

つまでかは不明である。

<本症例による鍼灸治療介入の総括>

客観的、主観的評価もできず、1度のみ治療であったが、僅かに鍼灸治療の効果が得られた症例と考える。

<治療開始時の状態>ターミナル後期

<転帰>8月2日(2回目予定日)に死去された。

20100006

〈症例〉62歳、男性

〈傷病〉胃癌、骨転移、大動脈周囲リンパ節転移

〈目的〉医師より、全身倦怠感が強いため軽減を目的に依頼。疼痛はあるが、転移によるものか否かは不明。

〈東洋医学的所見〉

食事は食べたいが、逆流しやすいため、あまり摂取できない。水分も同様と医師より代返。

家族が来院。下肢の冷えが強く、浮腫が足背から下腿全体にある。何度も会話を試みてるが、「うん」「ああ」といった言葉しか聞くことができず、本人から何が苦痛かは聞く事は最後まで無かった。その為、肝胃不和(逆流性)・脾腎陽虚(食欲不振・浮腫)とし、臓腑弁証に基づいた治療を開始する。脈：数(一息六至)、沈、虚、洪、太白から公孫にかけて軟弱かつ陥凹している。

〈期間〉8月9日

〈治療方法〉

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm(セイリン製5分-02番鍼)を使用し、刺入深度は切皮程度(0.1~0.4mm)、灸刺激は病院内での施術のため、e-Q(チュウオー製造温灸器)を使用する。温度は低温(47°C±2°C、5秒)に設定とする。体調に応じて皮膚に接触するだけの鍧鍼を使用した。鍧鍼は補法を目的に金鍼、瀉法を目的に銀鍼を使い分けた。

使用経穴は毫鍼：陰陵泉、復溜、足三里、e-Q(47.5°C×3)：公孫、円皮針：Lt公孫に行う。

〈結果〉鍼灸治療効果は一切採取する事はできなかった。また、後日に亡くなられたた

め、スタッフによる鍼灸前後での客観的変化は分からない。

〈本症例による鍼灸治療介入の総括〉

本症例では鍼灸治療効果は不明である。

〈治療開始時の状態〉ターミナル後期

〈転帰〉8月10日死去

20100007

〈症例〉84歳、女性

〈傷病〉右肺線癌

〈目的〉右肺線癌の胸膜癒着術後による右胸部の痛みの緩和。

〈東洋医学的所見〉

「お乳が痛い」というが、疼痛部位を確認するとだいぶ外側(胆経)部位だった。胸膜癒着という事で肺経の障害も考えた。喉が渇きやすい。突然イライラする。顔が白い、皮と骨と思えるくらい細い。狭溪～臨泣まで軟弱・圧痛、公孫軟弱、三陰交軟弱。八綱弁証：裏熱虚、臟腑弁証：肝腎陰虚、経絡弁証：肺経傷筋、気血津液弁証：気虚血瘀証と考え、瘀血・右足の少陽経脈病とし活血化瘀・通経を目的に臟腑弁証に基づいた治療を中心に、経絡弁証の治療を加療で行った。

〈期間〉8月12日から10月4日まで全10回行う。

〈治療方法〉

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm(セイリン製5分-02番鍼)を使用し、刺入深度は切皮程度(0.1～0.4mm)行う。

使用経穴は狭溪、外関、三陰交、中府にて治療を行う。

〈結果〉

患者は話したい事を話すが、評価になると「痛い、痛い」と何度も確認しても、はぐらかされてしまう。初診時「痛い」と言っていたが、治療直後から「痛みはない」と著効が得られた。また、数回ではあるがNRS評価でも9→2まで減少することもあった。

しかし、スタッフに対する攻撃的な発言

や、円皮鍼を勝手に取り、ベッドの柵を蹴るなど、行動も攻撃的になってきたため、中止を余儀なくされた。鍼灸治療効果時間は治療を受けてから寝る時までは楽とのこと。

〈本症例による鍼灸治療介入の総括〉

鍼灸治療は著効が得られていたが、胸膜癒着術による施行のため、痛みを完全に除痛することは難しかった。しかし、性格的問題により中止することになったが、総合的に鍼灸治療直後効果は著効であった。

〈治療開始時の状態〉ターミナル中期

〈転帰〉10月23日死去